

香川医療生協 医学生 奨学生 募集中。

奨学金制度 の趣旨

この奨学金制度は、医学部卒業後に香川医療生協・香川民医連の病院で研修し、地域医療に参加しようとする医学生を対象に、勉強などの経済的な援助を行う目的で設けています。

奨学金概要

一般	1～2年生	5万円/月額
	3～4年生	6万円/月額
	5～6年生	7万円/月額
特別	全学年	12万円/月額

※返済免除規定あり(返済金利なし)

奨学生になったら

- point ① 全国の医学生と学び合えるチャンス！
- point ② 低学年から病院実習をかさねて将来の医師像を掴める！
- point ③ 学生生活中的サポートが手厚い！

高校生予約奨学金制度
もあります。

香川県医学生修学資金貸付制度との
併用が可能になりました！

お問合せ・連絡先

高松平和病院

学生担当/花谷・野口・池内
tel.070-1258-6360 mail:heiwahp@gmail.com

香川民主医療機関連合会

高松市栗林町1-6-4
tel.087-836-9375
fax.087-836-9376



ブログ更新中

<http://www.heiwahp.com/>

高松平和病院 医学生・研修医のページ

検索

～日々の学習企画案内・報告をblogで随時更新中～

もれなく
QUOカードを
差し上げます。



発行元：香川民主医療機関連合会

2019 SPRING

KIMAI Vol.13



キマイ=讃岐(さぬき)弁で「来てね」という意味

C O N T E N T S

- ・研修医座談会
- ・患者さんとの心温まるエピソード
- ・企画報告①～ハンセン病フィールドワーク～
- ・若手医師の育児日記
- ・わたしのオススメ
- ・企画報告②～西日本豪雨災害支援活動～
- ・ISHIMESHI・私の仕事・編集後記

Doctor Mayu Uemoto × Doctor Osamu Yasuda

医学生と
香川民医連を
むすぶ情報誌

研修医
座談会

01・02p

香川民主医療機関連合会

香川医療生活協同組合

厚生労働省
指定臨床研修病院 高松平和病院



学生サポートセンターみき



〒760-8530 高松市栗林町1-4-1
tel.087-833-8113(代表) fax.087-833-8759



〒761-0701 木田郡三木町池戸1538-1森ハイツ1F

研修医 座談会

お互いパートナーが医師、
同じ年の娘さんがいるお二人、
仕事と家事の両立は
出来ていますか？

植本「家事は役割分担していますが、基本的には出来る
方が出来る事をするという感じです。突然子供の体調が
悪くなれば、どちらかが休みを取って対応しています。」

安田「自分は料理があまり得意ではないのですが、それ
でもカレーや鍋料理はします。子どもの体調が悪い時に
は、二人で話し合ってどちらかが休む時もあれば、奥さ
んの実家に預ける事もあり、なんとかやりくり出来てい
ます。」

安田・植本「その時に受け持っている担当によって休み
やすさは違いますよね。外来や往診の担当日であれば
休みづらい事もあります。」

植本「私は安田先生のご家庭と違って夫婦共に高松平
和病院で働いているので、仕事もお互い協力して子供
の急病時を乗り越えています。(笑)」

今回は大学時代に
同級生だった
お二人に
お話を伺いました。



高松平和病院 後期研修医

植本 真由 医師

Doctor Mayu Uemoto

profile

香川大学 2015年卒

滋賀県出身 膳所高等学校卒

後期研修中のお2人ですが、
自分の進む道は
きまりましたか？

植本「私は4月から県外に総合診療専門研修に行きます。
将来は診療所で働きたいと思っていて、今はそれに向
けての修行というか準備期間です。」

安田「私も将来は、普通の病気を診療所で診察して行き
たいと思っています。もともとはそう考えていた訳でな
くて、初期研修を大きな病院でしていた時に専門性が高
く、自分をもっと普通の病気を普通に診察して、患者さ
んが元気になっていく姿を近くで見たいと感じました。」

Doctor
Mayu Uemoto

Doctor
Osamu Yasuda



高松平和病院 後期研修医

安田 理 医師

Doctor Osamu Yasuda

profile

香川大学 2017年卒

大阪府出身 茨木高等学校卒

受験生の皆さんへ
メッセージ

安田「苦手科目を勉強すると効率よく点
数が上がると思います。私は英語が苦手
でしたが勉強から入るのではなく、自分
が興味を持てる分野から英語を学ぶとか
工夫すれば良かったと思います。」

植本「私も英語が苦手でした。ゴリ押し
で英語をひたすら勉強した感じです。受
験生の皆さんも大変だと思いますが頑張
ってください。」

高校1年生、2年生の
皆さんへメッセージ

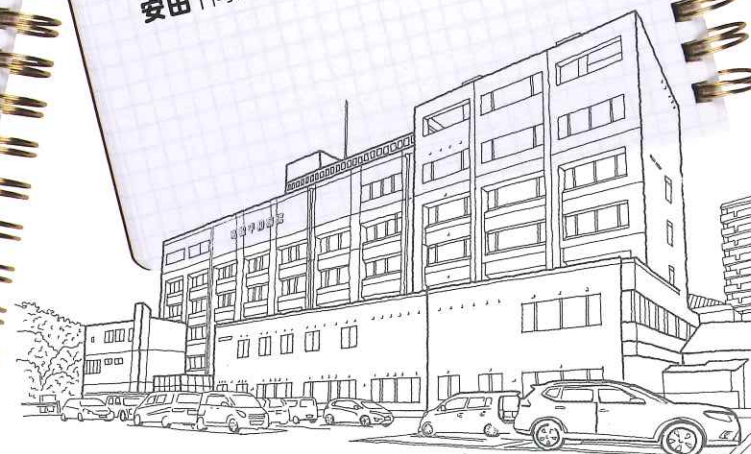
安田「私は大学卒業後に青年海外協力隊
に所属して2年間エチオピアに行ってい
ました。とにかく海外に行って視野を広
げるのはオススメです。」

医学生の皆さんへ
メッセージ

安田「今となったら解剖学をもっと勉強
していればよかったと思っています。」

植本「私も内分泌や生理学の仕組みをも
っと勉強していれば医師になってもう少
し楽だったろうにと後悔しています
(笑)。治療する時に原理原則が分かれば
いろいろ役立ちますよ。今は大変だと
思いますが、今している勉強は無駄には
ならないので頑張ってください。」

安田「同感」





私 は初期研修医の頃からずっと高松平和病院で働いてきましたが、今回原稿を依頼された時は正直何を伝えられるだろうか…としばらく悩みました。極端に言えばどの患者さんとも思い出があるし、辛かった事も嬉しかった事も数え切れないほどあります。色々考えた中で最近心に残った、高松平和病院らしいなあと感じたエピソードを2つほどお話しします。

～患者さんの力を信じて～

娘 さんが家で介護をされている100歳の女性が誤嚥性肺炎で入院されました。点滴や抗生剤、酸素投与等で治療を開始しましたが、反応が乏しく酸素は上がってこず不整脈も合併し、年齢的にも超高齢であり予後は厳しいと考え、ご家族に病状を説明して急変時（呼吸や心臓が止まった場合）の対応についても相談していました。この患者さんは食べる意欲がすごくある方で体調が悪い中でも何か食べたいと度々言うておられました。誤嚥のリスクはあるのですが、ご家族も悪くならないから食べさせてあげたいという希望があり、リハビリや看護のスタッフが直ちに評価をしてくれ「嚥下はそこまで悪くない。」との事でした。再度スタッフ、ご家族と相談して最期くらいは好きなヨーグルトを食べさせてあげようという運びになり、食べ始めてもらったところ肺炎の再発なく徐々に体調は良くなっていきました。最終的にはミキサー食を口から十分食べることができ、点滴も必要なくなり無事自宅に退院されました。ご家族の希望をくみ取ったスタッフからの提案がなければもしかしたら誤嚥を心配して何も食べられないまま悪くなっていたかもしれません。患者さんの生きる力ってすごいなあと感動すると共に超高齢だから厳しいだろうと思込んでしまっていた自分を反省しました。

～患者さんの願いを叶える～

大 病院から手術後のリハビリ目的で81歳の男性が入院されました。交通事故による骨折と小腸破裂で緊急手術されましたが、元々肝硬変があり術後の経過も良くなく術後の傷もなかなかふさがらなかった患者さんでした。入院された時も腹水のためかお腹は張っており両足のむくみも強くパンパンでリハビリどころではないのではと不安でした。やはり肝不全の終末期であるのか術後の腸閉塞や肝性脳症（アンモニアが上がって意識が低下する状態）、発熱などあり状態は不安定でリハビリはあまり進まず、胸水も溜まってきて酸素投与が必要となりました。そんな中患者さんから事故後長い間家に帰れてないので一度帰りたいと希望がありました。ほとんど動けないし酸素も必要だしどうしようか悩んでいたところ、病棟のスタッフが「家族と相談して外泊の日程決めますね」「在宅酸素の手配できそうです」「当日家まで私が付き添います」と素早く行動してくれ家族の協力もあり思ったより早く自宅への1泊2日の外泊が実現できました。残念ながらその2日後に血を吐かれ、状態が急変して亡くなられてしまいましたが、スタッフのおか

げで一度でも家で過ごす事ができて本当によかったと感謝しています。

私が働く高松平和病院はスタッフとの距離が近くお互いが協力して1人の患者さんを病気だけでなく生活もふくめて診る事ができ魅力的だなあと感じます。以前県外の大病院に研修に行った時は患者さんの病気が治ればそれで良く、自分の目の前を患者さんがただ流れていく様な感じでした。入院期間が長くなるとなぜ退院させられないのかスタッフから詰め寄せられ、無理なお願いをすることもできず孤独な思いをした事もありました。医師は医療を行う上で中心的な存在ですが、決して1人でできる訳ではなく周りのスタッフやご家族と一緒に診てこそ患者さんもよくなるし、幸せになれると思っています。

色々な働き方、働き場所がありますが私の話を読んでこんな病院で働いてみたいなあと興味をもってくれたらとても嬉しいです。

豊岡 志帆医師

Doctor Shiho Toyooka
profile
高松平和病院（消化器内科）
宮崎大学2002年卒 香川県出身
高松高等学校卒



12月25日に医学生さん2人と一緒に、冬の学習企画として「ハンセン病を学ぶフィールドワーク」に参加して来ました。

当日は、岡山県にある「邑久光明園」「長島愛生園」の両施設をガイドさんと巡り、ハンセン病の隔離の歴史を学びました。学生さんも事前学習を行い参加していましたが、実際に「回春寮（収容所）」や「監禁室」を見ると言葉を失います。国の強制隔離・患者撲滅政策で療養所に来てからも、療養所とは名ばかりの、過酷な強制労働、懲戒検束、断種・人工妊娠中絶手術による堕胎など、非人道的な行為が日常的に行われていた事を知りました。またこの様な政策がついに最近(平成8年)まで行われていた事にも驚きました。今でも全国14箇所(国立13、私立1で11都県)にある療養所には差別の歴史と戦ってきた1,338名の入所者が療養されており、平均年齢が85歳以上と高齢化が進んでいます。今回私達が学んできた事を写真と共に伝えたいと思います。

——— 下線は、平成30年5月1日 香川県調査数



▲回春寮(収容所)・・・まずここで消毒風呂に入れられ様々な検査が行われた後に1週間過ごす。入所時に金銭などは全て没収され、他の持ち物も消毒された。

感想

- 現地に行かないと知りえない事が聞けて勉強になった。
- ハンセン病の差別は、家族でさえも味方になってくれない、政策が撤廃された現在でも故郷に帰れない居場所がないという根深さを実感した。



▲ガイドさんと一緒に施設内にある教会の前で。一度入所すると二度と外部に出られなかったため、施設内には教会の他にもお寺や納骨堂などもある。



▲収容桟橋・・・島で隔離されていたので患者は船で連れて来られた。また職員用と患者用の桟橋は厳密に分けられていた。



◀監禁室・・・親の不幸に帰りにくても許可が下りず脱走した者など些細な事でも監禁された。また監禁室の見張りが入所者にさせ、お互いを監視し合うシステムにしていた。

物資搬入通路(トロッコ線) ▶
・・・この急な坂で入所者自身がトロッコを押し物資の搬入を行っていた。ハンセン病により末梢神経が侵されると、知覚のまひが起こるため、痛みや熱さを感じられず、怪我をしても気付かず、傷が化膿して手指や足の切断を行っていた。



若手医師の 育児日記 (植本一駿医師)

Vol.4

▶勉強会に夫婦で参加する時には子供も病院に連れて来て交互に面倒をみています。

植本 真由 医師

Doctor Mayu Uemoto
香川大学2015年卒 滋賀県出身
膳所高等学校卒

植本 一駿 医師

Doctor Kazutoshi Uemoto
香川大学2014年卒 岡山県出身
岡山理科大学附属高等学校卒

「子どもを育てるのは難しい。」

我が子を見ているとそう思うようになります。そもそも、自分たちが大人になりきれているのか、そんな中できちんと育児ができているのか、手探り状態で日々を過ごしています。最近はその中を走り回ったり、人見知りをしなくなったりと徐々に子どもらしい一面を見せてくれるようになった我が子。そういう姿を見ているときちんと育児ができていのかと少し自信が持てます。

育児と仕事はどちらも生活の一部で分けて考え

るべきものでもないとは前回話しましたが、全体の生活の質としてはきちんと保てるように仕事/家事/育児としています。よく「そこまで時間が取れますか」ということを聞かれますが、医師だけにとどまらず他の仕事でも、一日のスケジュールをきちんと把握し、コントロールすることで十分に患者さんに向き合う時間も取れますし、自分の時間も確保できるのかなと思います。なんとなく仕事していると、だらだら職場に残ってしまうのかなと思いますので、気をつけましょう。



▲研修医ルームで一緒に勉強（笑）

▲医局のアイドル



中田 耕次 医師

Doctor Kouji Nakada
へいわこどもクリニック所長 徳島大学1981年卒・香川県出身・高松高等学校卒

「柿の種」はB級菓子の一つである。なかでも「ピーナッツ入り柿の種」が私の好物だ。趣味がマラソンなので全国各地の大会に行く際は、必ず、ご当地の「柿の種」を涉猟する。越後製菓「味の追求」（マルナカにあります）がこれまでの最高評価であったが、先日、三越のマーケットでみつけた「千葉産ピーナッツ入り柿の種」は、柿の種の味の濃さと、ピーナッツの風味がマッチして最高評価となった。「ピーナッツ入り柿の種」探索の旅はまだまだ続く。現時点でのオススメNo.1▶



多田 開人

Kaito Tada
薬剤師

私のおすすめは読書です。特に最近は紙媒体ではなく、電子書籍をよく読んでいます。端末1つあれば、重い本を持ち運ばなくても、いつでもどこでも読むことができるのが、電子書籍の最大のメリットだと思います。但し、電子書籍のアプリ・サービスはそれぞれ、品揃えはもちろんのこと、購入方法や使用できる端末などが違うケースがあるため、自分が読む本のジャンルや環境によってどのサービスが最適なのかを確認してから使い始めるのが一番ではないかと思います。私は普段、アルファポリスなどを利用して無料の小説を読んでいます。Amazonが展開している電子書籍サービスのKindleには学生限定で入れる「Prime Student」もありおすすめだと思います。通学電車のちょっとした時間や勉強の合間の息抜きに利用してみてもいいのではないでしょうか？



▲私はこれで読書を楽しんでいます。

野口 淳

Jun Noguchi
学生担当



▲大学生の時に初めて鑑賞して感動しました。

私のおすすめする映画は『ショーシャンクの空に』です。1994年に公開されたアメリカ映画で、刑務所内の人間関係を通して、冤罪によって投獄された有能な銀行員が、腐敗した刑務所の中でも希望を捨てず生き抜いていくヒューマン・ドラマです。ホラー作家で有名なスティーブンキング原作ということもありサスペンス要素が散りばめられているなど、他の作品にはない濃厚な刑務所映画です。物語の他にも注目してほしいのが、ティムロビンズとモーガンフリーマンの名演技です。彼らの演技なしではこの映画は語れません。無冠の名作と呼ばれている本作ですが、私からしてみれば永遠の名作です。本当に心打たれる文句なしの名作ですので、嫌なことや、落ち込んで希望を失いかけた時にはぜひ観てみてください!!

企画報告

西日本豪雨災害 被災地復興支援 災害ボランティアに参加してきました!



11月4日(日)岡山県倉敷市真備町にて、被災地復興支援災害ボランティアに参加させていただきました。今回、高松平和病院の研修医1名、医学生2名、学生担当者2名が参加しました。当日の早朝から出発し、車で倉敷市の災害ボランティアセンターに向かいました。ミーティングでは、「30分おきの休憩の徹底」とにかく作業時において大切なことは「今日できることを、できる範囲で。無理をしないことが1番。」と伝えられました。

今回、活動を行ったのは真備町の川辺地区で、豪雨で5千棟以上が浸水、50名以上が亡くなるという、甚大な被害を受けた地域の一つで、他のボランティア参加者の方達と、個人宅の倉庫の壁、床材撤去作業をさせていただきました。ハンマーやバールを使っての解体作業は大変でしたが、皆自分ができることを一生懸命しました。汗でびしょびしょになりながらも働くメンバーの方達は本当に素晴らしいなと感じました。作業終了後、家主さんから「本当にありがとうございました。助かりました。これから頑張ります。」とお言葉をいただいて、私達も胸がいっぱいになりました。

ボランティアに参加した学生は、「ニュースで見ていた被災地に実際に出向いて作業をしてみて、徐々に復興されているものの、空き家が多かったりと、現地に行ってみないとわからないことも多いと痛感しました。被災者の方々との交流や作業を通して復興への一助になれたため、以前よりも気持ちが晴れました。」「初めてボランティア活動に参加して、慣れない作業で疲れましたが、いい経験になりました。また時間があれば参加したいです。」と感想を聞かせてくれました。



▲作業現場の個人宅倉庫



▲作業の合間にお昼休憩



▲バールを使っの作業



▲作業終了後

西日本豪雨から、1月6日で半年になります。広島県と岡山県では、いまも4800世帯以上が仮設住宅などでの生活を余儀なくされる一方で、被災した住宅の解体作業などは進まず、地域の復興に向けては、住まいの再建の支援が求められています。

また、被災者のなかには、住宅の解体・撤去を終えたとしても、再び災害に見舞われる不安や、経済的な理由などから、同じ場所に戻るかどうかためらう人も多いのが実情です。このため、地域の復興に向けては、今後の災害対策も合わせて、息の長い取り組みが求められています。(学生担当 野口)



▲ボランティアグループで集合写真

私の仕事



看護師
(ホスピス緩和ケア病棟)
宮武 真美
Mami Miyatake

高松平和病院のホスピス緩和ケア病棟で看護師をしている宮武です。高松平和病院のホスピス緩和ケア病棟は、2011年7月に高松市内にはじめての緩和ケア病棟として開設されました。緩和ケア病棟では、がんに伴う様々な症状を薬剤やケアにより緩和し、患者さんが日々の生活を快適に送れることを目指しています。

緩和ケア病棟の理念でもある『その人らしく生きていけるように』と、患者さんやご家族のお話を聴き、その人が何を大切に生きてきたのか、そこで私達ができることは何なのかを考え、緩和ケアを提供できるように心掛けています。限られた時間の中で、看護師として上手くいったこともあれば、失敗もあります。開設してから様々なことを患者さんやご家族、共に頑張ってきた仲間から学ばせていただいています。これからも、その人(患者さんやご家族)に関心をもち、『その人らしく生きていけるように』緩和ケアを提供していきたいと思っています。



毎年仕事納めの昼食に「越前そば」を医局で食べるのが恒例になっています。福井県出身の医師が中心になって年越しそばがふるまわれます。



編集後記

今まで医師体験や模擬面接に来てくれた全員の学生さんの合格を祈っています!(花谷)



いよいよ受験シーズン到来です!

[アンケートはがき] KIMAI2018秋冬合併号の感想

- 医師の方々がとても身近に感じられ「これなら医師になっても頑張れそう」と思います。(医学科4年)
- 私が持っていた研修医のイメージと違ってワークライフバランスがとれているのだと感じました。(高校2年生)
- リハ医に看取りのイメージがなかったのが新たな一面が垣間見えました。(医学科4年)

山崎 紀美医師

Doctor Kimi Yamasaki
検診担当